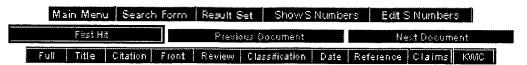
# WEST





# Document Number 14

PAT-NO: JP359039828A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59039828 A

TITLE: PREPARATION OF ANTITUMOR ACTIVE SUBSTANCE

PUBN-DATE: March 5, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SUZUKI, FUJIO
KATO, YUKIO
KAI, YUJI
TAKIGAWA, MASAHARU
SHIIO, TAKESHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

AJINOMOTO CO INC

COUNTRY N/A

APPL-NO: JP57149750

APPL-DATE: August 28, 1982

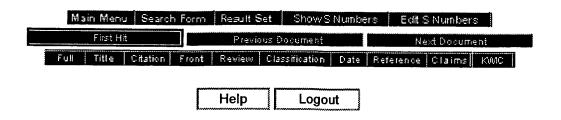
INT-CL (IPC): A61K 35/32

### ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain the titled substance useful as an antitumor agent with little side effects, by extracting an animal cartilage with an aqueous solvent, precipitating the resultant extract with a hydrophilic organic solvent, and separating a fraction of a molecular weight within a specific range having a collagenase inhibitory activity.

CONSTITUTION: An animal cartilage, preferably a bovine fetal cartilage, is extracted with an aqueous solvent and then precipitated with a hydrophilic organic solvent, e.g. acetone, to separate a fraction having 20,000∼300,000 molecular weight and a collagence inhibitory activity by the separating method with a membrane and give the aimed antitumor active substance. The resultant antitumor active substance can be purified if desired by the conventional purifying means for proteins, e.g. dialytic method, freeze-dried and preserved. The resultant freeze-dried substance is a water-soluble light yellow powder having 6∼7pH in an aqueous solution thereof. The substance has little side effects because the substance is derived from the living body, and made from the animal cartilage available in large amounts as a starting material. Therefore, the practicability as a carcinostatic agent can be expected.

COPYRIGHT: (C) 1984, JPO&Japio



AN 1984:197777 CAPLUS

DN 100:197777

TI Preparation of an antitumor agent from cartilage

PA Ajinomoto Co., Inc., Japan

SO Jpn. Kokai Tokkyo Koho, 4 pp.

CODEN: JKXXAF

DT Patent

LA Japanese

FAN.CNT 1

PATENT NO.

KIND DATE

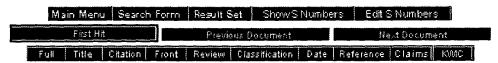
APPLICATION NO. DATE

PI JP 59039828 A2 19840305 JP 1982-149750 19820828 <--

AB \*\*\*Cartilage\*\*\* from animals is \*\*\*extd\*\*\* with aq. solvents and the \*\*\*ext\*\*\* treated with a hydrophilic \*\*\*org\*\*\*.

\*\*\*solvent\*\*\* to give a ppt., an antitumor substance with a mol. wt. of 2-30 .times. 104. The substance shows collagenase inhibiting activity and is a protein contg. 45.29% C, 7.24% H and 14.74% N. The protein from bovine fetus cartilage inhibites the growth of sarcoma-180 cells in female mice.

Help Logout



# **Document Number 42**

DERWENT-ACC-NO: 1984-092354

DERWENT-WEEK: 198415

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Antitumour component - prepd. by extracting animal cartilage with aq.

solvent and precipitating extract with hydrophilic organic solvent

PATENT-ASSIGNEE: AJINOMOTO KK[AJIN]

PRIORITY-DATA: 1982JP-0149750 (August 28, 1982)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO PUB-DATE LANGUAGE PAGES MAIN-IPC

JP 59039828 A March 5, 1984 N/A 004 N/A

APPLICATION-DATA:

PUB-NO APPL-DESCRIPTOR APPL-NO APPL-DATE

JP59039828A N/A 1982JP-0149750 August 28, 1982

INT-CL (IPC): A61K 35/32

ABSTRACTED-PUB-NO: JP59039828A

BASIC-ABSTRACT: Component is produced by extracting animal cartilage with aq. solvent, and pptg. extract with hydrophilic organic solvent to separate out fraction of mol. wt. 20-300 thousands having collagenase-inhibiting action. Cartilage material is pref. foetus cartilage partic. cattle foetus cartilage. End substance is soluble in water, difficultly soluble in hydrophilic organic solvent and extn., from starting material may be carried out by dissolving in aq. soln. of salt such as guanidine salt at pH 5-7 and repptg. by adding hydrophilic organic solvent such as acetone or ethanol and fractionating out.

Substance may be administered orally or by injection.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE-TERMS:

ANTITUMOUR COMPONENT PREPARATION EXTRACT ANIMAL CARTILAGE AQUEOUS SOLVENT PRECIPITATION EXTRACT HYDROPHILIC ORGANIC SOLVENT

DERWENT-CLASS: B04

CPI-CODES: B04-B04E; B12-G07;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M1 \*01\*
Fragmentation Code

M423 M720 M903 N161 N511 P616 P633 V600 V642 V814

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1984-039469

Main Menu | Search Form | Result Set | Show S Numbers | Edit S Numbers |
First Hit | Previous Document | Nert Document

AN 1970:117754 CAPLUS

DN 72:117754

TI Sulfated polysaccharide

IN Furuhashi, Tamotsu

PA Seikagaku Kogyo Co., Ltd.

SO Japan., 2 pp.

CODEN: JAXXAD

DT Patent

LA Japanese

FAN.CNT 1

PATENT NO. KIND DATE

APPLICATION NO. DATE

PI JP 45001444 B4 19700119 JP 19640807 <--

AB Manuf. of a polymer (I) contg. galactose, acetylglucosamine, and H2SO4 in 1:1:1-2 molar ratio is described. In an example, 10 parts

\*\*\*cartilage\*\*\* of whale is \*\*\*extd\*\*\*. with proteinase, NaOAc and EtOH added to the ext., the mixt. filtered, 95% \*\*\*alc\*\*\*. added to the filtrate to make the \*\*\*alc\*\*\*. concn. to 80%, the mixt. kept in a refrigerator overnight, the ppt. washed with EtOH, Me2CO, and Et2O, and dried in vacuo to give 0.05 part I.

# (19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

# ⑩公開特許公報 (A)

昭59-39828

⑤Int. Cl.³A 61 K 35/32

識別記号 ADU 庁内整理番号 7138-4C **3公開 昭和59年(1984)3月5日** 

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 4 頁)

# 砂抗腫瘍活性物質の製造方法

②特 願 昭57-149750

②出 願 昭57(1982)8月28日

**@発 明 者 鈴木不二男** 

豊中市中桜塚 2-13-11

⑦発 明 者 加藤幸夫

枚方市禁野本町 2-11-2752

@発 明 者 開祐司

八尾市八尾木22-1

仍発 明 者 滝川正春

大阪市阿倍野区晴明通9-7

70発明者 椎尾剛

鎌倉市山崎1495-5

⑪出 願 人 味の素株式会社

東京都中央区京橋1丁目5番8

号

B月 5個 書 発明の名称 抗腫瘍病性物質の製造方法

# 2. 特許請求の確開

動物飲骨より、水性脊線で抽出した後、製水性有機溶媒で沈澱せしめ、コラーゲナーゼ阻害 活性を有する分子量2~30万の値分を分離することを特徴とする抗腫瘍活性物質の製造方法。

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は抗腫瘍活性物質の新規製造方法に選する。

本発明者は、軟骨組織よりの粗抽出物はそのままでは抗腫瘍活性を示さないが、水性溶媒で抽出した後、親水性有機溶媒で沈酸せしめコラーゲナーゼ阻害活性を有する分子量2~30万の適分を分離したところこれが抗腫瘍活性を示すことを見出し、この発見に基づいて本溶明を完成するに至った。すなわち、この物質は、上記和抽出物よりソマトメジン様成長因子CDF (Cartilage - Derived Factor)を分離した残 彼より抽川耕製されたものである。

本発明の出発物質として使用する動物軟骨は 多位に入手できるという点で胎児軟骨、特に牛 胎児軟骨が好ましい。

本発明の目的物質は水に可溶、親水性有機溶 媒に維格であるが、出発物質より抽出するには、 グフニシン等塩水溶液で p H 5 ~ 7 程度の塩溶 液に溶解し、これにアセトン、エタノール等の 製水性有機溶媒を加えて再沈せしめ分取すれば よい。

分子 捷 2 ~ 3 0 万の 画分を 分離するには 例えば膜分画法を採用すればよい。

コラーダナーゼ阻害活性の測定は常法の測定 手段を利用すればよい。

なお、コラーゲナーゼ阻害活性成分と抗腫瘍活性成分が同一かどうか確認できていないが、 上記処理手段により得られ、かつコラゲナーゼ 阻害活性を有する画分、例とば後述試料Dが抗 腱瘍活性を有するものとして本発明の目的物質 となる。 さらに具体的には例えば、牛胎児軟骨をスライスし水性溶媒例えば塩水溶液中でホモジナイズし、アセトン分画(45~65%程度沈澱)し、得られた沈澱を上記塩水溶液中に再溶解し、膜分画(分子量2~30万)により分離すればよい。所別により透析等常法の蛋白精製手段により精製し凍結乾燥し保存することができる。

このようにして得られた連結乾燥品は淡黄色の粉末で、水に可溶である。水溶液の p B 値は 6 ~ 7 である。

本発明で得られた物質を制癌剤として使用する場合には、そのままあるいは適当な担体とともに経口投与するか、生理食塩水に称解して注射投与することが考えられる。

本発明品は、 生体由来であるため副作用が少なく、 大量に入手可能な動物軟骨を出発原料としているので、必要によりさらに精製して制癌 剤としての実用性が期待される。

以下、実施例により本発明を詳細に説明する。

製分子は30万カット限外越過膜「×M-300」を通し、限外越過液を得た。さらに、2.0 切/ は加川下、東洋越紙社製分子は2万カット限外越過膜「UP20」を加して内液(分子は30万~2万両分)(試料B)限外越過液(試料C)を得た。 試料Bを同様達析し、凍結乾燥し266 町の試料 B 乾燥品を得た。

1 C R 健マウス(5 超令)の皮下にザルコーマー180 騒紛細胞を移植し、担紙とした後、試料A および B 乾燥品をそれぞれ 2 号を生理食塩水に 常解したものおよび対照群として生理食塩水のみを 2 回皮下投与し、腫瘍移植後 5 週間目の腫瘍の 短、長径より触筋体積を測定し次の式により腫瘍 阻止率(1. R.)を求め、結果を設」に示した。

# i.R.=[対照群の順稿体積]-[試料投与群の順稿体積]×100% [対照群の順稿体積]

表1に示すように試料Aは抗腫瘍活性を示さなかったのに対して、これより精製した試料Bは抗 腫瘍活性を示した。

#### **宝旅例**1

牛胎児軟骨 2 0 0 9 をスライスし、 1 M グアニジン塩酸 - 0.1 M 6 - アミノー n - カプロン酸 ( p H 6.0 ) 2 ℓ 中でポリトロンによりホモゲナイズした。 4 で下 4 8 時間攪拌の後、 8 0 0 0 r p m , 2 0 分 ( 4 で ) 遠心し得られた上清にアセトンを 4 5 % ( 終 機 度 ) 添加し、 0 で下 2 0 分 放設した。

次いで、8000 г р m ,20分(4 ℃)遠心し得られた上海にさらにアセトンを加え終機度6 5 %とし再び0 ℃ F 20分放 置後8000 г р m ,20分(4 ℃)遠心した。得られた沈馥を 5 0 ml の 旅留水に溶解し、 旅留水に対して、 4 ℃ 下 4 8 時間透析を行い、 凍結乾燥の後 4 9 の 7 セトン 画分(試料 A )を得た。

試料 A 3 9 を 4 M グアニジン塩酸, 0.01 M エチレンジアミン四酢酸(EDTA)、 0.1 M 6 ーフミノー n ーカブロン酸(p H 6.5) 2 0 0 ml に溶解し、 8 0 0 0 r p m 2 0 分(4 で)遠心し、得られた上清を、 1.0 by / cml 加圧下、アミコン社

一方、試料 B およびCについてソマトメジン活性(Y.Kato,Y.Nomura,M.Tsuji,H.Ohmae,M.Kinoshita,S.Hamamoto and F.Suzuki \* Cartilage - Derived Factor (CDF) ! .

Somato medin— Like Action on Cutured chodrocytes\*

Exp. Cell Res.vol.132 P339-347(1881))

を測定したところ、試料でにのみ活性が認められた。

妻 1

試料	n	I,R,
, А	7	- 2.5 %
В	7	56.0 % <sup>*</sup>

※ 1 腫瘍体積において対照群(n=7)に 対してP<0.01

#### 尖施例 2

牛胎児軟骨 1 5 0 9 1 M グアニジン塩酸 0.1 M 6 - アミノー n - カプロン酸 ( p H 6.0 ) 1.5 ℓ 中でミキサーによりポモゲナイズした。 4 ℃ 4 8 時間脱搾の後8000 rpm,20分(4℃)遠 心し得られた上消にアセトンを終設度45%添加 し、0℃下20分放躍した。次いで8000rp m20分(4℃)遺心し得られた上消にさらにア セトンを加え、終濃度 6 5 % とし0 ℃下 2 0 分放 **置した。8000rpm20分(4℃)遠心後、** 得られた沈澱を 5 0 ml の蒸留水に溶解し蒸留水に 対して4℃下48時間透析の後凍結乾燥した。 これを200mlの4Mグアニジン塩酸、0.01M EDTA, 0.1M 6 - アミノーn-カプロン酸(pH 6.5 ) に溶解し、1.0.14/ml 加圧下、限外離過膜 「XM-300」に通し、得られた限外機過液を 1.5 kg/cd 加圧下、限外濾過膜「UP20」に 通し、内液を採取し同様蒸留水に対して透析の後 弾結乾燥し、172号の粉末(試料D)を得た。 蛋白を重量比で 645% (フォリン法)含有する。

次に試料 D についてコラーゲナーゼ阻害活性を 調定した。結果を表 3 に示した。

表 3

試料Dの使用量 (μg/nt)	コラーゲナーゼ活性阻害率(%)			
90 .	61.6			
900	82.6			
無添加(対照)	. 0			

なお、上記活性の測定に用いたコラーゲナーゼは家鬼皮膚を無血清培地にて器官培養して得られた培養上清をトリプシン処理により活性化したものである。コラーゲナーゼ活性は「HCーグリシン 標識コラーゲンよりの「HC放射能の25mMトリス塩酸、2.5mM塩化カルシウム中における遊離により測定した。

# 4. 図面の簡単な説明

オ1 図は、実施例 2 で得られた試料 D の赤外線吸収スペクトル図である。

特許出願人 味の素株式会社

元素分析値: C 45.29 %, H 7.24 %, N 14.74% 赤外吸収スペクトル ( K B r 希釈による拡散反 射法: オー図

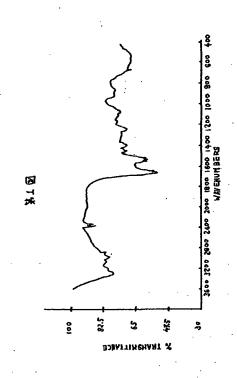
1 C R 雌マウス(5 週令)の皮下にザルコーマー180 腫瘍細胞を移植し、担癌とした後、試料D 2 町を生理食塩水に溶解したものおよび対照群として、生理食塩水のみを4回皮下投与し、腫瘍移植後5 週間目の腫瘍体積を測定し腫瘍阻止率を求め、結果を妻2に示した。

表 2

試料	n	1 . R .	完全退縮
D	7	77% <sup>※2</sup>	3/7

※2: 腫瘍体積において対照群(n=7)に対してP<0.01</li>

表2より試料 D は著しい抗腫瘍活性を示し、その結果、 7 匹中 3 匹は腫瘍が完全に退縮していることが理解される。



# (本)85828(4)

ita, S. Hamamoto and F. Suzuki " Carilage- Deriv-性 ( Y.Kato, Y. Nomuta, M. Tauji, H. Ohmae, M. Kinosh-

おいひとりゃくていておひむよお日体論 , 代一

を測定したところ, 試料のにのみ結性が認められ Exp. (elf Res.vol.132 P339-347(1981)) Somato media- Like Action on Cutured chodrocytee"

祥郑

涯

ed Pactor (CDF) B

は係体領において対照群( n = 1 )に

10.0 > 9 7 7 1 核

太に試料Dについてコラーサナーゼ阻当信性を

**张田张林武岳社** 人別山荒寺: 。るあす凶ハイリンス処理解

代表の目标紹立れる格子 2 胸崩堤 , 幻図1次 通牒な事態の面図 \*

類並るわは3中人ウツルセ外並Mm 8.5 / 頻単不 機器コラーサンよりの 4c放射能の25mMトリ マツリサーコリ 対到計サーセサーミニ 。そあての た箱銭上清をトリプツン処理により活性化したも れる特ア 1 雑曽育盟アコ郎曽衛血熱を胸丸東寒れ

ナーセヤーモに かい肌 3家既の独斎路上、おか

嵳

82.6

9 . ( 9

(8)本屋服御出みーイルーチェ

により額定した。

(別校)成滋慧

006

08

。おし示りを表を集別に示した。

(34/87) 再出形の (は対

るいアノ離後3全に連絡している 去, 1 示文社計數據版成十二 等出口 科 提 仓 工 2 先

10.0 > 4 7 J KX

。されち刺豚はよこ

3(1=1) は親校でおいて対脱群(1=1)に

1/5	2 <b>3</b> 4	96	2 /	 !	L	a	1
游览全法	•	8	٠	I	U	科技	†

より、結果を表 2 に示した。 麒麟 ,しも処不丸回トタをの水散食製品 ,フノミ 特徴役び1なのようし戦解3本は教皇出立ない5 O | 18 0 | 機能組織を移植し、租赁とした後、利用 アーヒルヤコ下出の(合数る) スセア朝8つ!

図1水 : 報籍

光光分析 H 7.24 %, N 14.74%

(月)米 ·沙·木声&关,直3 岩膏畔阳) C张O用图 登四の山路 、7

> 明網出の終明の替給は配けの 客区の上戦 9

10 2、機能により増加する発酵の数

(日の6月11月37日) 日赵祭) 日公月に平石の名間 4. 福正岛台の日付

緩 川 雄 到代初韓進 九 科 葉 ① 和 (800 ) . 特罗

**嗣8 番2 <u>目</u>T一翻京**图火小帮凉取

人演出戏科 発団のより市

3. 規匠をみる程

おお蛮國の関連性語彙前沿

2、范明の名称

808784日第64日 1868日 1868年 1868日 1868年 和表の計畫 、1

別 头 肋 约 许 许别们信件

EL CHRISTELL TO LE

(元代)出 五 酥 块 毛